

実や種

を見る

フクジュソウ(チライアパップ)



アイヌ語名は()内に の写真は毒草

遠くへ広がるために — タネの工夫？



さわるとはじけるキツリフネの実
7～9月

キツリフネの実を見つけたら、軽くつまんでみてください。はじけるように割れて中のタネが飛び出します。こうして少しでもタネを広げようとしています。

他にもハリがついて動物や人間(の服)にくっついて広がるキンミズヒキやオオダイコンソウ、小さなタネに綿毛をつけて風にとばすタンポポやアキタブキ、コウゾリナなど、それぞれ自分の子孫を広げる「技」を持っています。



「ひつつき虫」キンミズヒキの実
8～9月



エゾタンポポ。綿毛で風に乗る
5～7月



アキタブキ。こちらも綿毛をつける
4～5月

近づいてみると個性的な実 — ギシギシの仲間

草全体や花や実も、離れてみると地味なダイオウやギシギシの仲間。しかしその実を近くでよく見ると、翼(=つばさ)つきのかわいい実で、それぞれの個性もあります。



ノダイオウ。翼は滑らかでふくらみはない。7～9月



ナガバギシギシ。中央がふくらみ、翼は滑らか。7～9月



エゾノギシギシ(外来種)。中央がふくらみ、翼にはギザギザがある。7～10月

✂ 様々な実、タネ ✂



オオバナノエンレイソウの実（エマウリ）
甘くておいしいという

他にもぶら下がった実・茎の先につく実、鮮やかな実・地味な実、大きな実・小さな実、食べられる実・毒のある実、等々実に様々な実があります。

花の時期だけでなく、花が終わった後の草花もよく見てみましょう。

食べられる実は、鳥や動物が吐き出したり糞として出すことでタネを広げています。それぞれの実が、どんな「くふう」や「技」を持っているのか考えてみましょう。



オオアマドコロの実



ユキザサの実
(根はアイヌ語でペペロ)



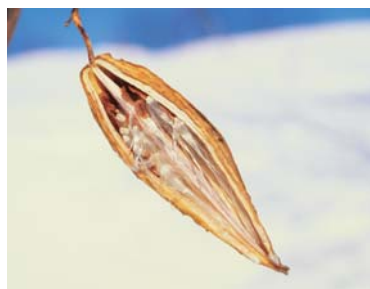
カラマツソウの実



コウライテンナンショウ（ラウラウ）
の実。実は毒にも薬にもなるという



オオウバユリの実（鱗茎はトウレフ）
実の中には翼つきのタネがビッシリ



ガガイモの実。中には綿毛つきのタネが
つまっている。綿毛に止血効果



オオイタドリ（クツタル）の実



ナズナの実。形を三味線のバチに
見立ててぺんぺん草ともいう



オオダイコンソウの実。楕円形。別
種のダイコンソウは球形になる

参考文献

「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 1995
「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房 1996
「北海道薬草図鑑 野生編」山岸喬 北海道新聞社 1992
「改訂版 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 北隆館 1989

「北海道植物図譜」滝田謙譲 自費出版 2001
「日本の野生植物 草本Ⅰ～Ⅲ」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1981, 1982
「森林で遊ぼうシリーズ3 おもしろい草花の話」北海道立林業試験場 北海道林業改良普及協会 1998